

地球研 × 立命館大学映像学部映像祭

暮らしは環境を映す

mumokuteki ホール

〒604-8061 京都市中京区式部町 261 ヒューマンフォーラムビル 3F (御幸町六角下る東側)

1月26日(土) / 27日(日)

13:00~18:00 (12:30開場)

入場無料・申込不要

「環境」と聞くと遠いものをイメージするかもしれませんが、実はわれわれの暮らしのなかに埋め込まれています。今回、人々の暮らしを映し出すことが得意な映像人類学者・生徒たちと、様々な分野から環境研究に取り組んでいる総合地球環境学研究所（地球研）がコラボし、暮らしから映し出される環境問題について考える作品を作りました。また、これをきっかけに人と環境に働きかける映像のあり方について考えます。

Day
1

1月26日(土) 人と環境に働きかける映像

13:00~14:30 今井友樹 『鳥の道を越えて』 上映

14:45~15:45 地球研における映像制作の方向性 金セツピヨル・三村 豊

16:00~17:30 人と環境に働きかける映像の制作と循環 大森 康宏

17:40~18:00 総合討論

Day
2

1月27日(日) 暮らしは環境を映す

Part 1. 13:00~14:20 人と自然の関わり方

『セッション』(竹田 優哉・4回生)

何億年とただ野にあった土が陶芸家によって発見され、焼き物になっていく。この作品では、そういった土の性質・性格と陶芸家の知識・技術との相互作用を映し出し両者の関係を探る。

『屋上の木箱』(丸田 修平・4回生)

近年、京都市内の緑が減少している中で、京都中京区役所の屋上でニホンミツバチを飼育しながら、緑化活動をしている西村勇さんに出会った。本作品を通してミツバチに関わっている人を通して自然と人との関わり方を改めて考えるきっかけになればよいと思う。

Part 2. 14:30~16:20 食べること

『架け橋』(安實 才稀・3回生)

京都丹波のオーガニック野菜を扱う移動式の八百屋「369 商店」を営む鈴木健太郎さんを通して、オーガニック野菜の流通事情や農家と消費者の関係性を探る。

『ハーフ・ビーガン』(辻 彩加、松本 彩・3回生)

ヴィーガンラーメンを提供するラーメン屋、豆禅。

ヴィーガンとしての視点と肉食主義としての視点を持つ店主の生活を通して、ヴィーガンとは何かを問う。

『交わり』(星野 桃伽・3回生)

クィア食堂の周りの「コミュニティ」と、そこから見る「食」について映像に残す。この食堂は、「クィア」と「ヴィーガン」のつながる地点ともなっているのだろうか。

『在日ベトナム人の生活』(中本 温己・3回生)

Part 3. 16:30~17:20 未来を変えること

『子供食堂』(成井 斐南・3回生)

『学び習う～環境分野における洛北高校生の取り組み～』(井上 真希、山田 有夏・3回生)

洛北高校「サイエンスⅡ 環境分野」の選択者 10名の研究を通して、成長過程を記録する。高校生に見られる変化とはいったい何か？ 高校生の課題研究とはいったい。

Part 4. 17:20~18:00 総括と展望 (鈴木岳海・金セツピヨル)


 地球研 × 立命館大学映像学部 映像祭
 暮らしは環境を映す

【登壇者紹介】

今井 友樹

記録映画監督

大森 康宏

映像人類学

国立民族学博物館 名誉教授

金セツピヨル

文化人類学・映像人類学

総合地球環境学研究所 特任助教

鈴木 岳海

映像人類学

立命館大学映像学部 教授

三村 豊

建築学

総合地球環境学研究所 研究員

ほか、地球研FEASTプロジェクト、コミュニケーション部門研究員たち

【展示】

『空間のミュージアム』

VR(バーチャル・リアル)を体験しよう! 360度カメラで撮影した祭りや演奏会の様子を体験してみませんか?

空間のミュージアムでは

①VRゴーグル

②ドーム型展示

③キューブ型展示

の3つの異なる表現方法で映像を上映します。

また、「疑似体験の度合いランキング」を発表したいと思います。

【地球研について】

総合地球環境学研究所は、地球環境問題の解決に向けた学問を創出するための総合的な研究を行っている大学共同利用機関です。

お問い合わせ先

総合地球環境学研究所 金セツピヨル kimsatbyul@chikyu.ac.jp


 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
 総合地球環境学研究所
 Research Institute for Humanity and Nature